

## 和歌山の二ヶ月

ゴセイウ  
教育学部 交換留学生 中国

和歌山の土地を踏んでからもう二ヶ月間、日本に来る前の心の緊張感と期待感を今でも覚えている。ここに来るまで、和歌山、日本はどのようなところか、一年間の生活は自分の大学生活のどんな一部になるか、こういう問題を心の中で何回も思い起こした。

和歌山の第一印象は静かだ。八時ぐらいの和歌山は車のベル声はあまりなく、町中いたるところは暗くて静かだ。私たちのトランクを引きずる音でさえ少し耳ざわりだ。たまに営業しているラーメン店が見える。暖かいあかりとゆらゆらしたカーテンは和歌山のように暖かさと明るさを添える。

初めて来た時、接触した人は日本人ではなくて、留学生のみんなだ。テーブルの周りに座って、違う言葉で一緒に交流するのも初めてだ。

日本に来た第1週間は授業がない。自分も日本が新鮮なので、いつも自転車で和歌山をぶらぶら見物していた。和歌山の生活息吹が非常に濃く、スーパーの中で物を選んでお年寄り、海岸に沿って散歩して、気持ち良さそうな風をうけている4人家族、夜、ラーメンの店で食べながらチャットする旧友、小さい犬を引っ張ってゆっくり散歩する夫婦。他の大都市も、もちろんこういう情景があるけど、このような静かな雰囲気が少ない。

でも、生活リズムがゆっくりしているのは、多くの若者はここがつまらないと思う原因です。みんなは大都市に行って生活



をする。これも日本でも大変な問題である和歌山の高齢化の原因だと思う。和歌山の現代産業と旅行業がもっと努力すれば、きっと和歌山の人口が多くなり、経済も以前より発展する。

日本に来て一週間後、大学に行って、学校の先生たちと面会した。先生は私たちの次からの学期のスケジュールを説明して、私たちの留学生生活を正式に始まるのを宣告する。

先生は私たちの留学生生活の中で一番深く接触する日本人だ。彼らから日本語の知識だけではなくて、留学生がよくわからないの日本人の考え方と仕事のやり方も身につけられる。私達の留学生生活を一枚の絵に例えるならば、一番重要な一描きは先生がする!

日本に来た後、当然色々な活動に参加した。唐人として和歌山の和歌祭りに参加した。唐人の服装とサンダルを着て、町に沿って歩いた。和歌祭りの日本酒も飲んだ。舞姫のダンスを見た。人の伝統的な活動の熱情に驚嘆する。みんなはよく準備して参加した。留学生みんなは分かれて違うグループに入ったので、この祭りがもっとうまくよく理解できた。



いろいろな形や規模が大きい活動以外、一番印象的なのは和歌のサークルだ。みんなはサークルが遊びだけのことと思わない。それは本当に趣味が同じの人同士で自分の趣味に真面目に全力を投入することだ。新入生の加入だけではなくて、活動の時も、みんな全身全霊です!

和歌山の二ヶ月で、ある一人が私の生活の中で重要な一部を占めている。彼はジムの店長、家庭的なジムで、大きくないけど、基本的なことは全部ある。店長はおじいさんと呼ばれても大丈夫だ。もう63歳の長寿だけど、体は非常に壮健だ。英知的な話をフィットネスの知識だけではなくて、日本、日本人はどのようなことも私に教えてくれた。「できるだけ他の人のことを考えて、迷惑をかけないようにする」や「日本人は小さいところから評価するから、自分の行為に注意しなければならない」な

ど、私は授業の以外のところで日本のことをもっと知ることができた。

忘れられないことはまだ色々ある。週末に日本人の友達と一緒にボランティアをしたことや和歌山城の頂上へ行いったことなどだ。こういう日、こういう歳月は一回だけだけど、将来、毎回この一年間を思い出す時、口元にはほほ笑みをつけられるだろう。活動の中でだけではなくて、普段の生活のそれぞれの方面で日本の文化を、自分の変化を感じている。

これからの時間はまだ長いけど、每一分每一秒をもっと大切にしたい。和歌山、君にありがとうと言いたい。